

ちとせ観光通信

～千歳一遇～ せんざいいちぐう

発行 一般社団法人 千歳観光連盟

066-0019 北海道千歳市流通3丁目4-1

電話 0123(24)8818

FAX 0123(24)8819

2025年10月27日発行【再刊第40号】

今号の話題

- 北海道千歳サミット開催
水と千歳の関わりから学ぶ
- 大阪阪急うめだで道物産展
観光連盟が初出展
- 森林スポーツフェス開催
秋の森でマラソン楽しむ

資源活用・観光の在り方学ぶ

テーマは「水をめぐる探求の旅」

自然・産業・歴史文化に触れる

北海道千歳サミット開催

観光連盟も加盟する「旅と学びの協議会」(事務局・全日本空輸)は10月4日から6日に北海道千歳サミットを、支笏湖地域を中心とした千歳市内で開催しました。「水」を切り口に、千歳地域の暮らしと産業を学び、持続可能な資源活用や観光の在り方を考え、地域振興や事業に応用できるヒントを得る狙いで、観光連盟が関係機関と調整して実施されました。

全国から同協議会に所属する航空会社や観光業、大学などの関係者が参集しました。テーマは「水をめぐる探究の旅～千歳に学ぶ暮らしと産業、未来への道」。縄文時代からアイヌ文化、現代に至るまで水と深くかわつてきた千

歳川流域の歴史と文化に触れ、飲料、精密機器、発電など水の恵みを受けた産業について学ぶことで、新たな知見を得てもらおう狙いです。自然の中でのアクティビティを通じた地域ブランドの可能性を発見するとともに、商品化の構想や、未来に向けたプロジェクト



クリアカヤックを体験する参加者



支笏湖と王子軽便鉄道の関わりを学びました

ト立案の機会とするなど、期待される効果は多岐にわたります。

支笏湖ではクリアカヤックを体験し、王子軽便鉄道ミュージアムで地域の歴史に触れました。道の駅サーモンパーク千歳やサケのふるさと千歳水族館も訪問。北海道中央葡萄酒・千歳ワイナリーやキリンビール北海道千歳工場を見学するなど、千歳の観光の魅力や水と関わりの深い産業についても学びました。

道産食材、大阪で発信

大阪阪急うめだ百貨店に初参加



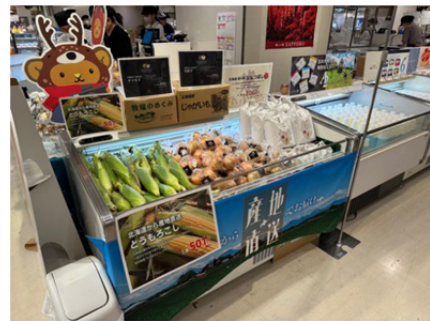
多くの人でにぎわった会場内

観光連盟は大阪阪急うめだ百貨店で開催された「秋の北海道物産大会」(9月23日～10月6日)に初出展しました。道産の米や玉ねぎ、そしてトウモロコシをブースで提供し、来場者の注目を集めました。

市内事業者をはじめ、連盟の仲介で登別市・白老町観光連絡協議会も参加しました。

北海道物産展は本州の百貨店では人気の企画となっており、観光連盟の参加で千歳と周辺地域のPR効果を望めます。出展したブースでは農産物はもちろん、ナキウスギをモチーフにした北海道のマスコットキャラクター、「キョUNCHちゃん」のグッズも並び、人気を集めていました。

観光連盟は今後も関係機関や百貨店と連携して、北海道物産展等に参加し、千歳と周辺地域の産品をはじめとした道産品のPRに努めていきます。



道産食材が並んだブース

秋の支笏湖、爽やかに汗 自然に優しいアクティビティも人気 森林スポーツフェス開催

同実行委主催。フェスタは今回で25回目。2022年2月に千歳市による「ゼロカーボンシティ宣言」とともに、環境省が支笏湖地区を全国6番目の「ゼロカーボンパーク」に登録したのを機に、同年から支笏湖地域で開催しています。参加者がスポーツや遊びを通して

北海道森林スポーツフェスタin支笏湖2025が9月28日、支笏湖周辺で開かれました。豊かな自然の中を走る森林マラソン(10キロ、2キロ)や、ノルディックウォーキングを通して、参加者は地域のかげがえのない自然を体感するとともに、秋空の下で爽やかな汗を流しました。

森に触れ合い、環境保全と自然保護を意識してもらうことが狙いです。実行委は観光連盟会長の小田賢一が実行委員長を務めています。

支笏湖小学校前広場をスタート、ゴール地点として小中学生や親子、成人のランナーが出場。小田実行委員長、増田靖士セブン・イレブン記念財団北海道地区評議員がスターターを務め、ピストルの合図でスタートを切った出場者が緑豊かなコースを駆け抜けました。



一斉にスタートを切った出場者

支笏湖ビジターセンター近くの園地では、国産食材や植物を原料とする土にかえる粘土の体験や、米の油を使ったクレヨンでのお絵描き、並べた木片を同じく木片を投げて倒すウッドボウリング、ロープで木に登るツリーイングなどが来場者を楽しませました。

同大会は1998年に札幌市定山溪の「豊平峡の森」で始まりました。それ以降、定山溪で17回、小樽市の天狗山で3回、岩見沢市で2回開催しました。コロナ禍を経て、支笏湖地域では2022年から開催し、今年で3回目となります。



ロープで木に登るアクティビティ「ツリーイング」

アイヌ文化を体験、尊さ体感 ムツクリ演奏、マレク漁、伝統舞踊

千歳・アイヌフェスタ

千歳アイヌ協会と千歳アイヌ文化伝承保存会による「千歳・アイヌフェスタ」が10月4日、5日、

千歳アイヌ協会と千歳アイヌ文化伝承保存会による「千歳・アイヌフェスタ」が10月4日、5日、

道の駅サーモンパーク千歳とサケのふるさと千歳水族館で開催されました。伝統の古式舞踊の披露や伝統漁具を用いたマレク漁の体験が行われ、訪れた人が千歳に伝わるアイヌ文化に触れました。

水族館近くの池にはサケが放たれ、小中学生がマレクを体験しました。マレクは、柄の先端に、紐のついた鉄鉤（てつかぎ）を取り付けた伝統的なもりです。体験者

サケの遡上する季節に、サケを大切な食料の一つとして生活してきたアイヌ民族の文化に触れてもらおうと企画されました。

水族館前で行われた古式舞踊の演舞では、民族楽器ムツクリの演奏や、勇壮なクリムセ（弓の舞）、ホリッパ（輪踊り）が披露され、ホリッパでは訪れた観光客や市民



マレクを使ったサケ漁を体験



ホリッパには市民や観光客も加わりました

は慣れない漁具の扱いに苦戦しながらも、保存会の会員からアドバイスを受けながら狙いを定め、サケの泳ぎがゆつくりとなったタイミングに合わせてもりを突き、見事に仕留めると観衆から拍手が送られました。

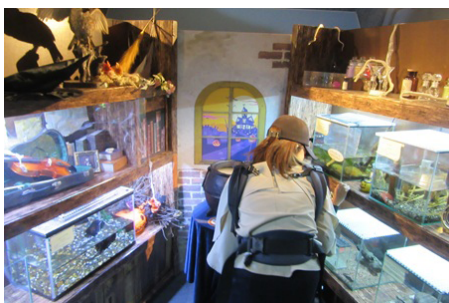
会場ではプラバンネームプレート作りの子供向けワークショップや、鹿角加工や木彫のブースも設けられ、参加者がものづくり体験を楽しんでいました。

「魔女の部屋」

によろこそ

ハロウィン特別展示

ハロウィンに合わせた特別水槽が、サケのふるさと千歳水族館で展示されています。「魔女の部屋」をイメージした一角に、アカハライモリやアズマヒキガエルといった生き物などを展示し、魔女が秘密の実験を行なったり、秘薬を作っていたりするような雰囲気を作っています。



不思議な雰囲気に満ちた「魔女の部屋」

し出しています。

イモリやカエル以外にも、水中で生活する唯一のクモ「ミズグモ」、獲物を捕らえて体液を吸う吸血鬼のような「タガメ」、皮膚に毒のある「ニホンウナギ」など、などを展示しています

コーナーには魔女の帽子やヘビの抜け殻、薬の瓶、鳥の剥製、呪文が書いてありそうな古い本、何やら怪しげな物を煮込んでいる釜なども並びました。全て職員が手作りしたり、用意したりしたもので、工夫を凝らしたアイテムの数々が、ハロウィンらしいちよっぴりおどろおどろしい、怪しげな雰囲気を演出しています。展示は10月31日まで。

26日には合言葉を言うとスタッフからお菓子をもらえる催しや、ランタン作り、仮装してのパレードが行われました。

イベント情報

▼ちとせ縄文フォーラム
2025（外から見た・感じた！縄文遺跡群の魅力を再発見）
（2025年11月16日、北ガス文化ホール）キウス周堤墓群を守り活かす会主催。有識者が千歳市中央の世界文化遺産、キウス周堤墓群の魅力を再認識する目的。講演、座談会、事例報告で日本と世界の世界遺産を比較します。

▼氷の美術館・千歳支笏湖氷濤まつり（2026年1月31日～2月23日、千歳市支笏湖温泉）国立公園支笏湖運営協議会主催。例年、大小約30基の氷像が登場します。昼間は日本屈指の透明度を誇る支笏湖の湖水が織りなす青い氷像群が、夜間はライトアップされた会場が、来場者を迎えます。観光連盟が事務局を務めます。

編集後記

朝晩の冷え込み、赤や黄色に色づいた木々、旬の味覚と、晩秋を感じる要素はさまざまですが、編集子はこれに「鳴き声」も加えたいと思います。

朝、「コオーツ、コオーツ」と独特の鳴き声が続くとも重なって聞こえ、目が覚めました。カーテンを開くと、朝焼けに照らされた大空を飛ぶハクチョウの群れ。逆Vの字を描いた編隊が、南の方角へと飛ぶのが見えました。冬を過ごすための日本への渡りの場面でした。

市内や近郊では千歳川や農地、ウトナイ湖などで見られるハクチョウたち。この渡りの声を聴くと、冬の扉が開く前の、晩秋の風情をしみじみと感ずるので。皆さんは何に季節を感じますか。（ひ）